

平成 13 年 11 月 2 日

マレーシア・ボルネオ生物多様性保全協力プログラム第 2 回短期調査派遣報告

第 2 回短期調査及び実施協議調査・森林動物保護担当

山田文雄（森林総合研究所）

第 2 回短期調査における調整の結果、「生息域拡大」コンポーネントは「生息地管理」に名称を変更し、対象地域をタビン動物保護区とその周辺をパイロットケースとして実施することになった（「第 2 回短期調査及び実施協議概要報告（平成 13 年 10 月 23 日）」参照）。この主な理由は、現存の情報・人材・技術レベルなどの実施体制との関係、保護区拡大のための土地利用変更の現実的困難性、筆頭実施機関である野生生物局の意向のためである。本稿では、タビン動物保護区の現地調査（10 月 20-21 日）などに基づき、本コンポーネント推進のための課題と所感を報告する。

1. タビン動物保護区の特徴

サバ州に設定されている動物保護区としては最大面積（125km²）の低地林で、希少大型獣（スマトラサイ、アジアゾウ、バンテン、オランウータン、テングザル、ウンピョウなど）を含めた生物相の豊富で重要な生息地と位置づけられる（図 1, 2）。しかし、遠隔地で利便性が悪いためにこれまでの調査実績が少なく保護管理が十分ではなかった。このため、本プログラムによる活動内容に則した投入が行われれば、モニタリング手法の確立やハビタットレンジの確定など基礎的情報に基づく保護管理計画が立てられる。さらに隣接の生息地との連結が図られれば、生息地拡大につながり個体群の遺伝的交流が促進され、生物多様性保全が一層図られる。

2. 現在のスタッフ

現地スタッフは現在 9 名（区長 1 名、法規制課 2 名、管理課 3 名、研究課 3 名）で、通常の業務は狩猟免許発行と管理、他の保護区を含めた密猟監視、車両の検問などである（図 3, 4）。また研究者の手伝いやモニタリングも多少は行われている（図 5）。スタッフは通常の業務以外に調査研究活動を望んでいるという。これに関連して、野生生物局のスタッフの日本での研修が行われてきた。受入れは北海道環境科学研究センターで、1993 年、1994 年及び 2001 年に各 1 名が 10 カ月の期間、主に GIS（地理情報システム）、植生図作成、野生動物管理法などの研修を受けている。この研修は元海外協力隊員が帰国後、北海道庁の JICA の個別研修枠を利用し受入れている。しかし、野生生物局における機材や職場環境の事情などのため、研修を受けたスタッフはこのような技術を現地の野生動物保護活動にほとんど活用できていない。他の機関（例えば森林局）のデータや資材を活用できれば、研修の成果が現地で適

用され情報が蓄積されるであろう。

3．調査ルート

タビン保護区に到達するルートは少なく、また保護区内の車道も少ない(図6)。唯一コアゾーンに至る自動車道が存在するが、途中の何ヶ所かの橋の崩壊で、車両による利用は困難で徒歩に頼らざるを得ない(図12)。事務所から17km地点に壊れかけた小屋があり、コアゾーンの入口まで24kmの距離があり、徒歩で6時間以上かかるという。今後、定期的で効率良いモニタリング調査を実施するためには、この車道と調査ルート(トレイル)の確保が必要である。

4．通信

現在、タビン事務所には無線機しかなく電話回線はない(図7)。最寄りのラハッド・ダツ支局(未舗装の林道を車で2時間弱)とはこの無線機で通信している。ファクスや電子メールの通信はできない。他の事務所で使用されている無線電話の確保が今後必要であろう。

5．これまでの研究者の利用状況

タビン動物保護区を中心とした最近の研究として、インベントリー調査(JICA)、マレーグマ研究(北大博士研究1999-2001年)があり、またマメジカ(東京工業大学ほか2002-2003年)やゾウ(東京農工大学2002年から)の研究が計画されている。また、海外研究者NGO(SOS Rhinoのカメラ設置)も活動している。これらの研究者との有機的連携や情報収集は本プログラムを推進するうえで不可欠であろう。宿泊施設はエコツアー用に使用可能で、2002年に向けて現在整備中である(図8)。野生生物局の対応に関してはおおむね評判が悪く、組織的な脆弱さが指摘されており、今後円滑な運営が求められる。

6．所感

いくつかの問題を克服しつつ、筆頭実施機関の人材育成や技術移転を図り、成果を達成するためには、相手国の諸関係機関との一層の連携が不可欠であろう。このため立上げ段階には、純粋な研究者よりも、むしろ実力をもちこのような対応に熟練した方が担当すればより早く軌道に乗せることが可能と思われる。



図1．遠方の森林がタビン保護区．林道周辺はオイルパーム畑



図2．ゾウの糞（オイルパーム畑境界の林道などで頻繁に見られる）



図3．タビン保護区の事務所玄関



図4．事務所内部（区長，法規制課，管理課，研究課の9人とJOCV2人勤務）



図5．大型獣（サイ，バンテン，ゾウ）の発見場所の図

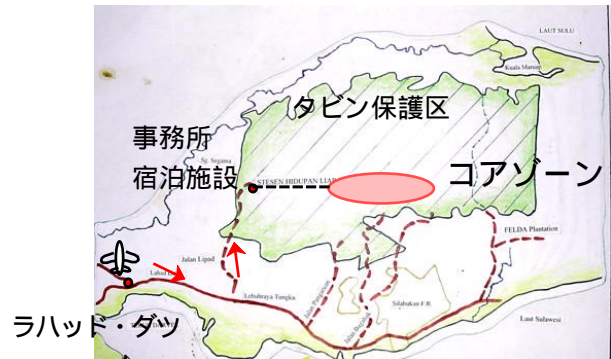


図6．ラハッド・ダツからタビン保護区に至る車道（赤い線）



図7．事務所とラハッド・ダツ支局間の通信手段の無線機（矢印）



図8．エコツアー宿泊施設（Tabin Wildlife SDN BHD 経営）

沙巴州政府與日政府代表簽約 共同推行生態多元化及環保計劃

【本報訊】沙巴州政府昨天與日本國際合作機構(日本政府機構)、馬來西亞沙巴大學及沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

在該項由四個機構組成的技術合作計劃中，沙巴環境部、沙巴大學、日本國際合作機構及沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。



沙巴州政府代表與日本國際合作機構代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴州政府代表與日本國際合作機構代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴州政府代表與日本國際合作機構代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴州政府代表與日本國際合作機構代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴州政府代表與日本國際合作機構代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴州政府代表與日本國際合作機構代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴州政府代表與日本國際合作機構代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴州政府代表與日本國際合作機構代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴州政府代表與日本國際合作機構代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。

沙巴環境部代表在亞庇簽署一項沙巴環境部與日本國際合作機構共同推行生態多元化及自然系統保育合作計劃的簽約儀式。



ITS A DEAL... Mustafa (centre) exchanging documents with Kusano yesterday. - JKM photo

State teams up with JICA, UMS on conservation

KOTA KINABALU: The State government has entered into a technical cooperation programme on environment with the Japan International Cooperation Agency (JICA) and Universiti Malaysia Sabah (UMS) for five years.

Mustafa who will be assisted by Abu Hassan and Kusano, had been formed to coordinate the programme.



SEALED... Mustafa (middle) exchanging documents with Kusano (right), while Pg. Hassan (left) looks on.

Five-year program to conserve biodiversity

By Ripin Mintow
KOTA KINABALU: A five-year integrated programme to conserve the Borneo biodiversity and ecosystem found in Sabah was sealed here yesterday.

Mustafa who will be assisted by Abu Hassan and Kusano, had been formed to coordinate the programme.

Tripartite pact on biodiversity

By CHRIS MASKLONE
KOTA KINABALU: Efforts to conserve Sabah's biodiversity and ecosystems received a shot in the arm when the State Government entered into a technical cooperation programme (TCP) dubbed "Conservation of Borneo Biodiversity and Ecosystems in Sabah" with the Japanese International Cooperation Agency (JICA) and Universiti Malaysia Sabah (UMS) Friday.

Mustafa, in his speech at the ceremony held at Wisma Innespire here, said the programme would also involve policy makers involving administration at the state and local government levels.

Mustafa said 10 workshops had been conducted during the past few months to ensure implementation in an integrated manner since it was not easy to coordinate due to the sheer numbers of agencies involved.